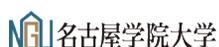


ぎふCOC+参加大学共通プログラム

サマースクール in中濃 2018





「地域で生きるということ に触れる機会」

ぎふCOC+参加大学共通プログラム
サマースクール責任者

岐阜大学地域協学センター副センター長
佐々木実

2015年10月に採択された文部科学省のCOC+事業（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）では、岐阜県における若者の地元定着率を上げることを目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点を増やす企画や、産業界ニーズにより適合した人材を育成する教育プログラムを実施しています。

私はぎふCOC+の様々なプログラムの中心としてこのサマースクールを考えています。普段の環境を離れ、初めて出会った他大学生とチームを組み、課題解決に向けて色々な意見を持つ人と出会う機会となっています。地域の課題は、解決には長年にわたる取り組みが必要であり、2泊3日で取り組むには大きな課題だと思いますが、その分濃密で、実践的でありながら、地域で生きるということに触れる良い機会だと考えています。

今年は3年目を迎え、中濃圏域で開催しましたが、通常の2泊3日のプログラムが台風で中止となり、変則的な実施になってしまいました。全体テーマを「伝統産業・文化の磨き上げ」として、関コースは刃物産業を盛り上げる新たな展開を、美濃コースは和紙と街並みから美濃市の発展を、郡上コースは水文化の新たな魅力展開を提案ということで、例年より短い時間でいかにまとめ上げるかという難しいプログラムとなりました。

各グループとも、多様な意見をどこに着地点を見つけ、まとめ上げるかということで、十分な議論を尽くせなかったかもしれませんが、限られた時間の中で内容を検討してまとめあげ、発表までたどり着くということも重要なことです。その結果、今年度は59の方が無事修了いたしました。

通常の大学での座学とは違う、このような正解のない課題に取り組むという経験は、必ずや社会に出たときに役立つものであると確信しています。このプログラムを修了した君たちの今後の飛躍に期待しています。また、企画実施に当たりご協力いただいた関係諸機関の皆様に改めて感謝申し上げます。

目的

COC+事業では、岐阜県における若者の地元定着率を上げることが目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点を増やす企画や、産業界ニーズにより適合した人材を育成する教育プログラムを実施しています。

大学間共通のプログラムであるサマースクールでは、地域を支えている方々や他大学の学生と一緒に地域の「将来」を考えていきます。地域の現状や地元企業の理解を深めることで、今後のキャリアの選択肢を広げることを目指します。

全体テーマ

「伝統産業・文化の磨き上げ」

プログラム概要

2018年9月4日(火)～6日(木) 2泊3日の日程を予定していましたが、台風21号が直撃したため中止し、土曜日を2回利用した代替プログラムを実施しました。

- 1回目…現地見学と今後の方針決定。3日程実施。
10月27日(関)、11月3日(美濃)、11月17日(郡上)
- 2回目…振り返りと提案作成、発表。2日程実施。
11月24日(関①②、美濃①②③、郡上①②)
12月3日(関③、美濃④、郡上③)

参加人数

1回目：55人(申込59人、当日欠席4人)

2回目：56人

サマースクール2018修了者：59人

※当日欠席の4人には資料を配布して2回目に備えさせました。当初のサマースクールに申し込んでいたが、2回目の日程が合わなかった3人には個別レポートの提出を以て代えました。

刃物産業を盛り上げる新たな展開を提案



見学：2018年10月27日

参加学生：18人
 岐阜大学3人
 中部大学12人
 日本福祉大学2人
 名古屋学院大学1人

コース概要

関市は700有余年の伝統を持つ世界三大刃物の都市として有名です。現在でも家庭用刃物の50%のシェアを誇りますが、近年、海外の企業との競争が激化し、最盛期と比較すると売上げは大きく減少しているのが現状です。

関市で効果が出始めている新たな取り組みを学び、関市の刃物産業を盛り上げる提案を考えました。

見学日スケジュール

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 10：00～11：30 | 関刃物伝承館・フェザーミュージアム
刃物会館 見学 |
| 11：50～13：00 | 関サービスエリア見学・昼食 |
| 13：15～14：45 | グループワーク（中部学院大学） |



発表内容

① 関日帰り観光ツアー

関はまだまだ、観光地として有名とは言い切れないが、モネの池や武芸川温泉と刃物を組み合わせることでより、観光振興に綱が得ると考え、関の地域資源を満喫する日帰り観光ツアープランを検討しました。



② 関の刃物祭りの新企画

関の刃物の認知度向上が必要と考えた際に、関の刃物祭りの新たな名物となる新企画として、日本人が抱えるストレスを刃物で解消する「思いのたけを刀に込めて」と題する提案を行いました。



③ 関市を世界へ

刃物出荷額が国内は盛り返しているのに対して海外が横ばいという現状に注目。日本と海外のPR動画の違いや関市のPR動画を参考に、世界にPR動画を発信することを提案しました。



コース担当教員より

関の刃物の歴史・特徴を理解するために「関鍛冶伝承館」を訪問しました。「フェザーミュージアム」、「刃物会館」を見学し、実際に商品がどのように販売されているかについて「関サービスエリア」にて理解を深めました。

学生は、関の刃物の歴史についての理解を深めるだけでなく、近年の関の刃物業界で起きているトレンドについても、実地にて理解を深めました。そののちに、刃物を活かした産業振興、観光振興の提案を検討しました。

和紙と街並みから美濃市の発展を提案



見学：2018年11月3日

参加学生：23人
 岐阜大学9人
 中部学院大学2人
 中部大学12人

コース概要

美濃市は、ユネスコ無形文化遺産「和紙と手漉き技術」に選定されている日本を代表する工芸品「本美濃紙」の一大拠点です。和紙は近年、アートやクラフト素材としても活用されています。

このコースでは美濃和紙の里会館で伝統ある美濃和紙について学び、江戸時代から明治初期の「うだつ」のあがる町並みを訪ね、歴史ある美濃の町を活性化する提案を行いました。

見学日スケジュール

- | | |
|-------------|------------------|
| 10：00～11：00 | 美濃和紙の里会館 見学 |
| 11：30～13：30 | うだつのあがる町並み 見学・昼食 |
| 14：00～15：30 | グループワーク（中部学院大学） |



発表内容

①若者観光客を増やすために

美濃市のうだつのあがる街並みの若者観光客を増加させることを目指し、インスタグラムの活用促進を促すスタンブラリーなどについての提案を具現化しました。

若者観光客を増やすために

美濃コース1班

中部大学 山下虎太郎
 中部大学 湯田淳之介
 中部大学 富田謙太
 岐阜大学 村尾峻
 岐阜大学 安藤なるみ
 岐阜大学 井口麻那

②美濃市の現状と対策

課題としてアクセスの悪さや認知度の低さをあげ、美濃に立ち寄ってもらう人を増やすために、現在実施されている「あかりアート展」等のイベントに加えてフォトコンテストの開催を提案しました。

美濃市の現状と対策

平成30年11月24日

野寺 成美 加賀 知大
 久野 広喜 小川 東登
 田中 拓斗 渡邊 知博

③美濃ごはん

美濃市のうだつのあがる街並み近隣に着目し、「食」の魅力により観光客を増やすことを目指し、「美濃の古民家」で「岐阜の名産」を食べられるようにする施策を提案しました。

美濃ごはん

～ 岐阜の美味しいものに出会える町 ～

2018/11/24

川畑・田中・西脇・尾藤・星野・松村

2018年 サマースクール発表会

④美濃の街並み改造計画

美濃市に訪れる人を増やすために、以下の施策について具体的に提案を実施しました。

- ①全国の小学生から美濃和紙による折り鶴（千羽鶴）の募集。
- ②食べ歩きを促す店舗デザイン提案。



コース担当教員より

美濃和紙の歴史・特徴を理解するために「美濃和紙の里」を訪問し、理解を深めた後に、実際に美濃和紙でできた最終商品がどのように販売されているかについて「うだつのあがる街並み」のフィールドワークを実施しました。

学生は、実際に自分の目で見て課題を特定し、その解決策を具体的に提言しました。

ご協力いただいた丸重製紙の辻社長様、美濃市役所の方々には厚く御礼申し上げます。

名水の町、水文化の新たな魅力展開を提案



見学：
2018年11月17日

参加学生：19人
 岐阜大学4人
 中部学院大学2人
 中部大学7人
 日本福祉大学2人
 名古屋学院大学4人

コース概要

郡上八幡は清流・名水の有名な城下町です。奥美濃から流れ出た3つの川が合流する地形に根付いた、豊かな水文化があります。それを支える地元の方の働きや、水の魅力を再発見して活用している事例を学び、新たな展開を提案しました。

見学では水の活用に詳しい武藤隆晴氏を案内人に迎え、伝統的な水にまつわる文化や、新たな水の活用事例を学びました。

見学日スケジュール

10：30～11：30 郡上八幡 水辺の散策

案内人…NPO法人 郡上八幡水の学校 武藤 隆晴 氏

11：30～13：00 昼食と自由散策

13：10～14：40 グループワーク（郡上市文化センター）



発表内容

①水の都 Gujo

全体観光客数が減る中、右肩上がりの外国人観光客に注目。多言語パンフレットや、外国人向けに伝統文化を学べるツアーを提案し、観光と伝統文化の融合を目指しました。



②郡上観光ツアープラン

郡上の豊かな自然環境や歴史文化に注目し、エコツーリズムを中心に考察。山の手入れや水路整備を通じて学べるプランや、郡上の魅力を体験できるプランを提案しました。



③郡上クリーン&リピート計画

若者が郡上に来て、水環境の維持活動に参加する旅行プランを提案。清掃活動への参加と引き換えに後日使える割引券を配布し、リピート客の獲得も狙いとしました。



コース担当教員より

関の刃物・美濃の和紙に並ぶ郡上のものは何か、と考えた時に、「水」はどうかと郡上市役所の方からご提案をいただきました。身近な資源で新たな活用も進んでいる「水」は、非常に興味深いテーマとなりました。時間も短くどのチームも観光という視点では不十分なところもあるが、「郡上ならでは」についてよく考えた提案になったと思います。

最後に、ご協力いただいた皆様には心から御礼申し上げます。

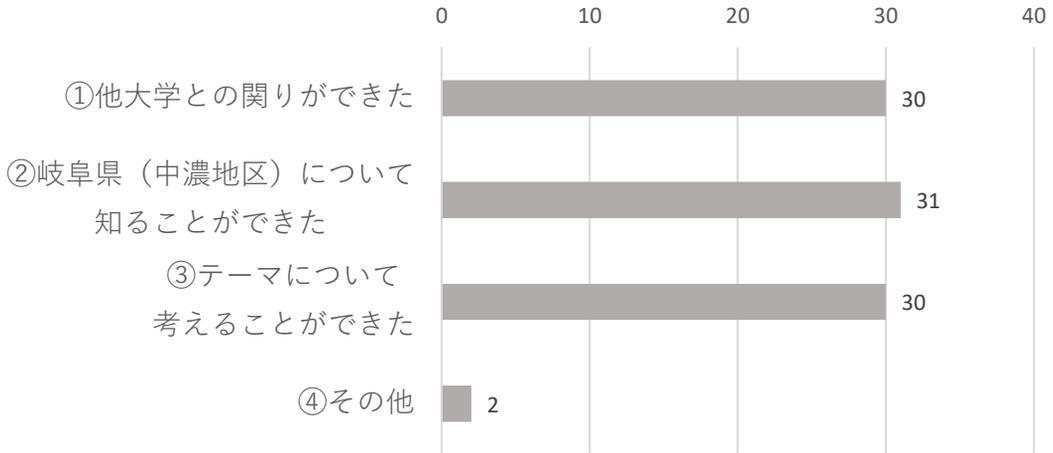
アンケート結果（抜粋）

実施日：2018年11月24日及び12月3日

回収数：53枚（回収率90%）

【内訳】 関コース15枚（参加者18人）
美濃コース22枚（参加者23人）
郡上コース16枚（参加者19人）

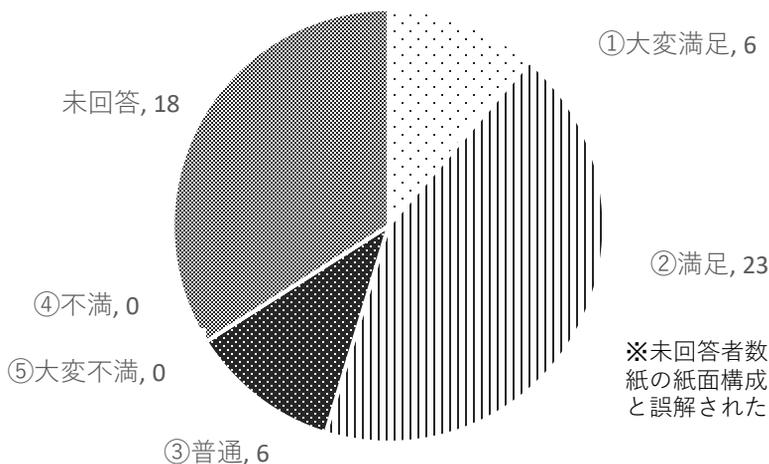
サマースクールに参加して良かったことは何ですか（複数回答）



④その他の記述内容

- ・自分の意見を持つことができた
- ・もっと地元を知りたいと思った

プログラム全体の満足度を教えてください。



※未回答者数が多いのはアンケート用紙の紙面構成上、回答欄が選択肢見本と誤解されたと考えられる。

コメント（抜粋）



<関コース>

- ・おもしろみがある
- ・刃物の状況を知ることができた。



<美濃コース>

- ・体験などがありおもしろかった
- ・いろいろな意見を言い合いながら見学できてよかった

<郡上コース>

- ・水をととても大切にしていることが伝わった
- ・郡上には魅力が多いと思った



<全体>

- ・人生でとても良い経験になりました
- ・他大学と交流できておもしろい
- ・他の地域も行ってみたい





ぎふCOC+事業推進コンソーシアム

文部科学省

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

ぎふCOC+参加大学共通プログラム

サマースクール2018 in 中濃

編集・発行 地域協学センター
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL.058-293-3880
FAX.058-293-3881
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>
平成31年3月

発行